

田辺眼科通信 5号

オリンピック

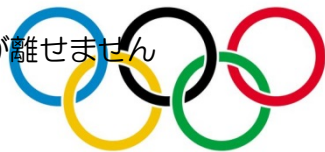
さて、今全世界で注目を集めたオリンピックですが、皆さまも寝不足の日々が続いていたのではないのでしょうか。今回のオリンピックでは、日本はメダルを8個獲得しましたね！

ソチ、という地名はお恥ずかしながらこのオリンピックをきっかけに初めて耳にしたので、ソチについて調べてみました♪ロシアにある黒海に面したリゾート地で、東京から直線距離で8000km、空路で15時間ほどかかるそうです。

日本との時差は5時間あります。ロシアといえば極寒の地をイメージしますが、今の時期は最低気温3℃、最高気温は10℃くらいと、名古屋とほぼ同じくらいの気候のようです。意外ですね！

冬季オリンピック自体は1924年から始まり、このソチオリンピックは22回目です。

今後のオリンピックも目が離せません



目が回る？

皆さん、オリンピックはご覧になりましたか？

ソチオリンピックで私が特に印象に残っているのは、フィギュアスケート女子です！浅田選手の演技、とても感動的でしたね！

ところでフィギュアスケートと言えば「ジャンプやスピンであんなに回っているのに、どうして目が回らないのだろうか・・・。」と不思議に思ったことはありませんか？真似をしてもフラフラして立てそうにありません。

実は、練習をしなければ、プロの選手でも目が回るのだそうです。

通常、身体が回転すると脳が目へ指令を出して、身体の回転と反対方向に目を動かして視界のブレをなくそうとします。フィギュアスケートの選手は訓練を重ね、目の動きをコントロールできるようになっているのだそうです。訓練の賜物なのですね！

3歳児検診

先日、ママ友さんから「なんで定期検診は3歳なの？」「わざわざ眼科までいかないといけない？」などの質問を受けました。

乳幼児期は、すこやかな目の成長にとって、とても重要なのです。視力の発達する期間（生後すぐ～5、6歳）に何らかの理由で「物をくっきり見る」ことが妨げられると、視力が発達しません。

乳幼児は言葉で「見えない」と言えません。両目ともとても視力が悪いお子様は、テレビにくっつくように見るなどで、保護者の方が気づくことがあります。片目だけ視力が悪い場合には、保護者の方が見えていても気づくことができません。それは、検査をする事で初めて分かるものなのです。

こうした異常に気づかず、見過ごされると、大きくなってから治療しても十分な視力が得られない場合があります。早期に見つけ、小さいうちから正しい治療や指導をする必要があるのです。

3歳児健診について、ご不明な点がありましたら、当院スタッフにご遠慮なくご相談下さい！

花粉症

花粉症の症状には、くしゃみ、鼻水、鼻づまり、目のかゆみの4大症状があります。何故、花粉症がこの様な症状を引き起こすのかと言いますと、

①体には、外から見慣れない異物が入ると、排除しようとする免疫の機能が備わっています。花粉という異物が侵入するとまず、それを受け入れるかどうか考えます。

②排除しようとした場合、体はこれと反応する仕組みを持っています。

③抗体ができた後、再び花粉が体内に入ると、鼻や目の粘膜にある肥満細胞の表面にある抗体と結合します。

④その結果、肥満細胞から化学物質（ヒスタミンなど）が分泌され、花粉をできる限り体外に放出しようとします。

そのためくしゃみで吹き飛ばす、鼻水・涙で洗い流す、鼻づまりで中に入れないようにするなどの症状がでるのです。

